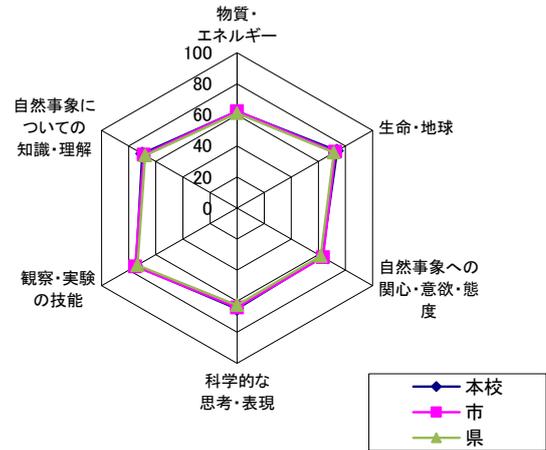


宇都宮市立富士見小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	62.3	62.4	61.1
	生命・地球	73.8	72.5	71.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	62.7	63.4	61.7
	科学的な思考・表現	64.9	64.1	62.6
	観察・実験の技能	74.6	75.2	73.5
	自然事象についての知識・理解	69.9	68.8	67.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○本領域の平均正答率は62.3%であり、県の正答率を1.2ポイント上回った。</p> <p>○「グラフから水の状態を読み取ることができる。」の正答率は62.9%であり、県の正答率を8.3ポイント上回った。</p> <p>●「空気でっぽうで空気を押し縮めた時の手ごたえと、空気のもとにもどろうとする力によって玉が飛ぶことを理解している。」の正答率は67.2%であり、県の正答率を6.3ポイント下回った。</p> <p>●「電流を強くする乾電池のつなぎ方を理解し、それを説明することができる。」の正答率は32.8%であり、県の正答率を2ポイント下回った。</p>	<p>・実験に対する関心・意欲は高く、前向きに取り組む姿が多くみられる。しかし活動が中心となってしまう正しい知識が定着していない様子が見られる。今後は、全体で確認をするための実験を行ったり、正しい知識を問うような問題を出したりすることで知識の定着を図る。</p> <p>・学習した内容が、生活のどのような場面で見られるかを紹介したり、どのようなものに生かされているかを考えるように声をかけたりすることで、日ごろから興味・関心を高め、知識と生活が結び付けられるように工夫をする。</p>
生命・地球	<p>○本領域の平均正答率は73.8%であり、県の正答率を2.4ポイント上回った。</p> <p>○「容器にふたがあると、蒸発した水は出ていかず、内側に水滴がつくことを理解している。」の正答率は51.7%であり、県の正答率を7.1ポイント上回った。</p> <p>●「気温の正しい測り方を理解している。」の正答率は、64.7%であり、県の正答率を6.3ポイント下回った。</p> <p>●「示された方位から他の方位を推測することができる。」の正答率は37.1%であり、県の正答率を0.4ポイント上回ったが、正答率が低い。</p>	<p>・実験器具に触れる機会を増やすことで、児童の興味・関心を高めるとともに、実験器具の正しい使い方が定着するような授業の展開を心掛ける。</p> <p>・理科の学習に限らず、身の周りの事象に興味をもち日々の生活の中でも学習した知識を活用できるように声掛けをしていくことで、児童の興味・関心を高めるとともに正しい知識の定着を図る。</p>